



青森で農業はじめました

～魅力ある農業経営を目指して～

新規就農者から学ぶ 就農体験談集

就農
体験談数
13名

新規就農者の生の声を多数紹介しています！

農業で家族と過ごす時間が充実

農業＝きつい・たいへんのイメージを変えたい

人とのつながりを大切に・・・etc.

令和5年1月
東北農政局青森県拠点

はじめに

現在の日本は、世界でも有数の少子高齢化社会であり、多くの産業・業種において労働力不足が深刻化しています。中でも農業は少子高齢化の影響を受けやすく、農業就業者に占める65歳以上の割合(下表参照)を見ても、令和2年(2020年)には70%程に達するなど、高齢化の波は引くところを知らず、後継者不足、新規就農者の減少と相まって、人手不足は一段と深刻さを増しているところです。

このような状況下、農業を仕事にしたいと考えたとき、就農するまでの流れや必要な物などの情報をどこで集めてイメージしたらよいか分からない方もいらっしゃると思います。東北農政局青森県拠点では、このような方々の一助となればとの思いから、令和2年度以降、様々な就農者の皆さんの体験談などを取りまとめてきました。

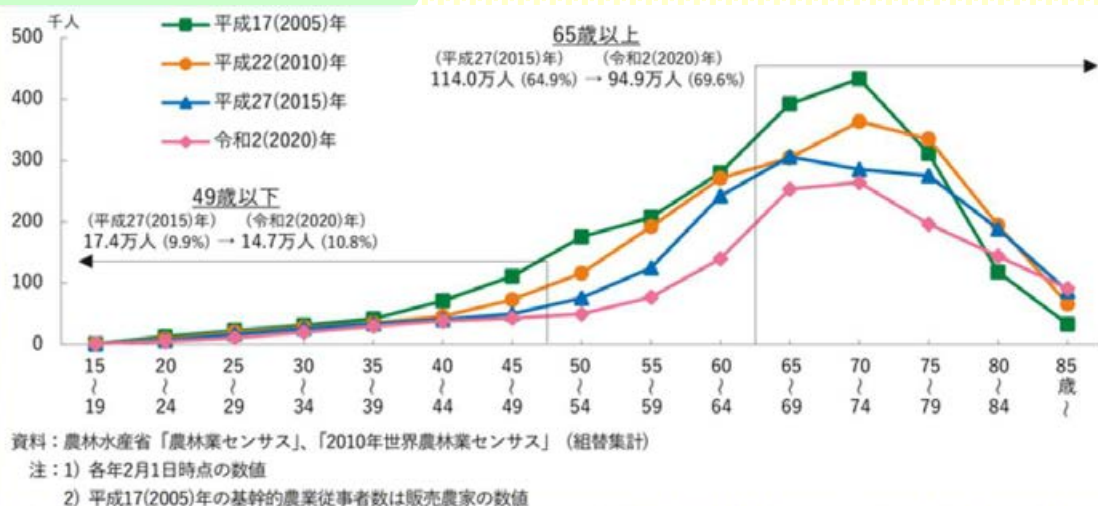
本冊には、令和4年度に取材した一人ひとりが想う「農業の魅力」や「就農のきっかけ」、「苦勞させられたこと」、「これからの展望」などのご紹介とともに、「農業をはじめてみたいあなたへのメッセージ」を掲載しておりますので、ご一読いただき、それぞれの思いを共有していただければ幸いです。

最後に、大変お忙しい中、こころよく取材に応じていただきました農業者の皆様、関係機関の皆様方に、心よりの敬意と感謝を申し上げます。

令和5年1月

東北農政局 地方参事官(青森県担当) 木村 勝彦

我が国の年齢別農業者数



【留意事項】

- ・掲載情報は編集時点のものであり、常に最新のものと限りませんので御了承ください。
- ・事例は、関係者の皆さまに御了解をいただき掲載しています。画像等の転記・無断使用はお控えください。

青森県の新規就農者 目次



【おいらせ町】上久保 大造さん（就農3年目） 4-5



【五所川原市】桑田 庸揮さん（就農6年目） 6-7



【青森市】川田 和也さん（就農4年目） 8-9



【東通村】濱田 幸彦さん、裕子さん（就農5年目） 10-11



【弘前市】對馬 雅之さん、絵理さん（就農6年目） 12-13



【田子町】関口 善寿さん（就農4年目） 14-15



【五戸町】高山 鉄身さん（就農4年目） 16-17



【鰺ヶ沢町】栗原 亜華音さん（就農3年目） 18-19



【むつ市】北上 智哉さん（就農3年目） 20-21



【青森市】塩崎 忍さん（就農3年目） 22-23



【東北町】鶴ヶ崎 善貴さん（就農6年目） 24-25



【六ヶ所村】對馬 響子さん（就農1年目） 26-27



【八戸市】吉田 宗司さん（就農3年目） 28-29

注）本事例集では、就農して概ね6年目までの方を新規就農者としてご紹介しております。

かみくぼ だいそう 上久保 大造 (25)



おいらせ町
就農3年目

祖父母と先輩農家の栽培技術を受け継ぎ、自分なりの農業スタイルで「儲かる農業」を目指しています。

みごとなダイコン畑



収穫間近のダイコン

整然としたナガイモ畑



ナガイモの支柱立ては、気が遠くなります。

大型トラクターは必須



自慢の外国製の愛車の前でポーズ

農業＝きつい・たいへんのイメージを変えたい

前職は自動車会社に勤務し整備を担当していました。フォークリフトの整備などで農家と接する機会も多く、経営努力が収入に反映される農業に魅力を感じ、自分でもやってみたいと思っていたところ、母方の祖父母が離農するとの話があり、思い切って就農しました。

経営概要

- 栽培面積: 7.9ha
- 栽培品目: ダイコン3.4ha 年2回栽培
ナガイモ1ha、ゴボウ3.5ha
- 主な保有機械: 大型トラクター、ブームスプレイヤ等
- 労働力: 本人、繁忙期は数名を雇用。

- 販売先: ダイコンはJAと地元青果会社(畑で現物販売)
ナガイモ、ゴボウは市場出荷。



研修での学び

■研修期間 1年間

営農大学校で、あおもり農力向上シャトル研修を1年間受講し、農業経営や農業機械の操作技術等について学びました。実践研修は、地元おいらせ町の畑作農家でダイコン栽培をマンツーマンで学ぶことができました。今まで触れたことのない先輩農家の技術や農業に対する情熱は、感銘を受け大きな目標になっています。

■最初の相談先：青森県営農大学校

就農するときに苦労したこと

農地、農業機械は祖父母から引き継いだので初期費用の心配はありませんでしたが、農業を実際に始めて、作物を育てる難しさを痛感しました。幸いにも祖父母や地域の先輩農家から栽培技術や販売等に関して助言をいただける事に、日々感謝をしています。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金(準備型)
- ・経営継承・発展等支援事業

私スタイルの農業はコレ

主力のダイコンは、A品95%以上の目標を定め、効率的な除草、堆肥を施用し、水はけの良い農地になるよう全力で取り組んでいます。

<参考>A品とは、形状が概ね真っ直ぐで虫害や亀裂等がないもの。



今後の展望

同世代の若い人が抱いている「きついたいへん」のイメージを払拭し、「カッコ良く儲かる」「職業としていいかも」と言われるような楽しく、明るい農業を目指しています。そのためにも同じ目標を持った若手農業者との交流を図っていきたいと思っています。

また、農作業の効率化を図るためスマート農業(ドローン等)を取り入れることも計画しています。



農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

現在、新型コロナウイルス感染症や肥料、燃料、資材の高騰など、農業を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。このような時期に就農した自分としては、今が底であり、これからきっと上向くと自分自身に言い聞かせてポジティブに考えています。うまくいかないこともあります、気持ちを高め、自分なりの農業のおもしろさを見つけていくことが必要だと思っています。

くわた ようき
桑田 庸揮 (32)



**五所川原市
 就農 6 年目**

子供の頃から農業を職業にすることは、
 当たり前だと思っていました。
 父にどうせ農業を勉強するならば県内では
 なく、県外で勉強した方が良いと言われ、
 東京農業大学短期学部に進みました。



東京農業大学時代の恩師に「花は人が生きていくうえで必要かと言えば必要でない。しかし、人生の節目・節目で主役になる」と言われ感銘し、花を生産することを決めました。

家業を継ぐのは当たり前

出荷目前のデルフィニウム



栽培管理を徹底しています。

定植作業準備完了



定植作業はピンセットも使用！

送風機とLED電球



温度管理と生育に必要です。

経営概要

- 栽培面積: パイプハウス4棟(120坪)
- 栽培品目: 花き(デルフィニウム・トルコキキョウ・ストック・スナップ)
- 主な保有機械: トラクター、除雪機、灌水装置
- 労働力: 本人 (繁忙期: 妻・友人)
- 販売先: JA(つがるにしきた)

研修での学び

■研修期間 2年間

東京農業大学短期大学部(2年)で農業の基礎について学んだ後、花屋に就職して1年間現場経験をしました。その後、青森県農林総合研究所で、花の生産に関すること、農業簿記・青色申告等会計事務について学びました。

実地研修では、実際に花を生産している県内の数多くの農家に出向き栽培方法を直接見れたことは、非常に良かったと思っています。

■最初の相談先:父

(米と大豆を生産している父から農業次世代人材投資資金制度のことを教わりました。)

就農するときに苦労したこと

農地取得・パイプハウスの建設費及び機械等導入費の資金調達(約1,800万円)に苦労しました。研修が1月31日までだったため、4月の営農開始に農地取得等が間に合わず、1年目は、親のパイプハウス1棟(100坪)を借り、デルフィニウム・トルコキキョウを生産しました。2年目になって、父の紹介で近所の離農する農家から農地を購入し、そこに補助事業を活用してパイプハウス4棟(120坪)を建設しました。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金(準備型2年)
- ・農業次世代人材投資資金(経営開始型5年)
- ・青森4連農業者支援事業(JAグループ)
- ・青年等就農資金(日本政策金融公庫)

就農して6年目の課題

就農2年目に結婚し妻と二人で作業をしていましたが、妻が2才の娘の育児中のため、今は一人で作業をしています。そのため、人手不足で作業が遅れ気味になっていることが課題です。

私スタイルの農業はコレ



★定植作業時は、うしろを見たら負け、前だけを見て進む。

★できるだけ肥料については、外国産由来のもの、動物性堆肥を使用しない栽培方法にこだわっています。

今後の展望

農地は既に取得しているので、パイプハウスの面積を倍増し、経営規模拡大に取り組みたいです。

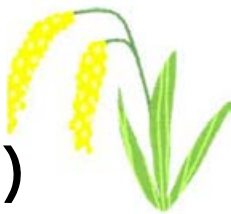
また、積極的にスマート農業を導入し、作業の効率化を図り、100%A品の生産をしたいと考えています。

農業をはじめてみたい

あなたへメッセージ

「髪を何色に染めても良い、格好も自由、好きな時に休んでも良い、何をやるのも自由。」自分の取り組み次第で華やかにも地味にもなって結果を私達に返してくれるそんな花の生産に「やりがい」を感じています。

かわだ かずや
川田 和也 (23)



青森市
就農4年目

祖父が長年培ってきた栽培技術を基に、自分のペースで作業ができる農業に「やりがい」を感じています。



祖父の想いを継いで

幼稚園児の頃、農作業をする祖父の軽トラックに乗ることが楽しみでした。小学生になると、トラクターにも同乗させてもらい、中学生で、将来は農業に従事することを決め、営農大学校に進みました。

収穫目前の大玉トマト



収量確保のため手間の掛かる連続2段階芯栽培に挑戦中

8条植え田植機



GPS・自動操舵付き田植機

60PSトラクター



12haの水田を耕起する相棒

経営概要

- 栽培面積: 水田12ha(当初 5.5ha)、ビニールハウス28a(12棟)
- 栽培品目: 水稲、トマト(大玉)
- 主な保有機械: トラクター、自動操舵付き田植え機、コンバイン
- 労働力: 本人 (繁忙期: 祖父・祖母・母)
- 販売先: JA(米穀・トマト) 集荷業者(米穀)

研修での学び

■研修期間 2年間

青森県営農大学校で、農業に関する基礎知識や経済学など幅広く学びました。その中でも、先進的なトマト農家での実地研修で連続摘芯栽培方法を経験できたことは、現在の生産に役立っています。

■最初の相談先：祖父



就農して4年目の課題

水稻の作付面積拡大に伴い、作業効率を考え、紙袋(30kg)出荷からフレコン(1t)出荷への変更を検討しています。

自前の乾燥調製施設にフォークリフトが入らないため、施設の拡張費用の捻出だけでなく、今の資材価格の高騰が懸念材料となっています。

今後の展望

水稻は、経営規模拡大を目指しています。今後、高齢化や後継者不足により、離農する生産者が増えると思うので、私が受け皿になり地域の農地を集約できればと考えています。

トマトは、ハウスの自動開閉や液肥管理等を自動で行う環境制御技術を導入して作業を効率化し、高品質で安定した生産を目指したいと考えています。

就農するときに苦労したこと

農業機械等を購入するための資金調達に苦労しました。当初、農業次世代人材投資資金（開始型）及び青年等就農資金の活用を考えていましたが、就農する際に祖父の農業部門をそのまま引き継いだために、活用できませんでした。

その代わりに、農機具メーカーのクレジットローン（約1,800万円）を組むことができ、GPS・自走操舵付きトラクターを導入することができました。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（準備型）



私スタイルの農業はコレ

作業が重複する時期が少ない、水稻とハウストマトの二刀流で取り組んでいます。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

私は、子供の頃から人に言われて行う仕事は向かない、やってもつまらないと思っていました。その点、農業は自分のペースで好きなようにできますが、取り組みの結果が出来不出来となり自分に返ってくる「やりがい」があり、「素晴らしい仕事」だと思っています。



はまだ ゆきひこ
濱田 幸彦 (39)

はまだ ゆうこ
濱田 裕子 (40)



東通村

就農 5 年目

幸彦さん「研修中は、いちご栽培は大変だと思っていましたが、妻の想いに打たれ、共に営農を決意しました！」

裕子さん「研修先での成果は、うまい事、夫のスカウトに成功したこと？」

収穫を迎えたいちご



収穫最盛期は朝から晩まで大忙し！



5年やったら新しいことに
挑戦する時間ができた

パック詰め作業



重量選別機で仕分けし、最後は重さや形を見ながらパック詰め

加工品で新たな食べ方の提案を



フリーズドライいちご (左)
いちごパウダー (右)

むつ市内の研修先で、一緒に研修したことをきっかけに結婚し、夫婦で共同経営を開始。

幸彦さん：むつ市出身。県外に就職していたが地元に戻ってきました。元々農業に興味があり、若いうちにやってみようということで就農しました。

裕子さん：茨城県出身。東通村で農業をやっていた祖父母の離農話を契機に、Iターンして就農することを決意しました。

経営概要

- 栽培面積：いちごハウス(100坪)×16棟、ほか畑約3ha
- 栽培品目：いちご、ほうれん草、さつまいも、そば
- 保有設備・機械：冷蔵保管庫、重量選別機、トラクターなど
- 労働力：本人(2人)、通年雇用3名、臨時雇用1~2名

■ 販売先：弘前中央青果(地方卸売市場)

JA十和田おいらせ、
ポケットマルシェ、食ベチヨク、
minne、ラクマ

活動の様子はこちらから📞

Instagram @piyo_strawberry



研修での学び

■研修期間 幸彦さん：2年間

1年目は、青森県営農大学校で、農業の実践に必要な知識・技術の習得を目指す社会人向けの研修を受講しました。

2年目は、むつ市内の園芸農家で、いちごやその他の施設園芸作物の生産方法と、ビニールハウスの構造や管理方法、生産活動に必要なノウハウなどの研修を受けました。

■研修期間 裕子さん：1年間

幸彦さんと同時期に、むつ市内の園芸農家で同じ研修を受けました。

■最初の相談先：下北地域県民局

就農するときに苦労したこと

研修先で、施設園芸での新しく効率的なかん水方法などを学び、早速、栽培に活かそうとしましたがダメでした。従来の栽培方法を改めて、新しい方法に変えていくには、並々ならぬ忍耐と苦労があると感じました。



活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（準備型）
- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）
- ・産地パワーアップ事業（いちごビニールハウス）

就農して5年目の課題

近年、猛暑のため、ハウス内での収穫作業がとても大変です。過酷な環境下での作業の中、パート従業員さんの負担を少しでも軽くできるよう、より効率的な作業方法や、環境の改善を考えたいです。

私たちスタイルの農業はコレ★



インターネットやSNSを活用し、柔軟な発想で、試行錯誤をしながらいちごづくりをしています。



農業をはじめてみたい

あなたへメッセージ

幸彦さん：自分で作った農産物を適正な価格で売る場所を確保しなければ、せっかく良い農産物を生産しても経営は良くなりません。まずは、値決めができる販売先の確保を心がけてみてください。

裕子さん：生産して、ただ市場に出荷するという時代ではなくなっています。これから、生産して、売るためのひと工夫、アイデアが必要です。その思いがあれば、新たな道を切り開いていけると思います。

今後の展望

就農した時は、目先の生産と販売に必死で、興味があった加工品（6次化）まで手が回りませんでした。

最近、ようやく加工品にも挑戦する余裕ができてきたので、規格外品を活用した加工品を造り、それを使った新しい料理や食べ方の提案をして販路の開拓と拡大に繋がりたいです。

つしま まさゆき

對馬 雅之 (34)

つしま えり
對馬 絵理 (30)



弘前市

就農 6 年目

雅之さん 先輩農家からアドバイスしてもらい、地域の人との関係を大切にしています。

絵理さん 夫の1年後に就農しました。働く姿を子供達に見せることができ、幸せです。

みんなで、はいポーズ



りんご収穫作業

どれも美味しいかなあ



りんご選別作業

一人でできるよ



収穫用カゴの運搬



人とのつながりを大切に

りんご卸売会社に勤務し、同社のりんご園でも作業していましたが、妻の祖父の離農をきっかけに、園地を継承し就農しました。

技術をコツコツ習得し実践することが好きなので自分に向いていると感じています。

経営概要

- 栽培面積: 1.5ha(全体の9割がりんご、残りは、もも・西洋なし)
- 栽培品目: りんご(ふじ8割、残りは、つがる・ジョナゴールド)
- 主な保有機械: 乗用草刈機、スピードスプレーヤー
- 労働力: 本人、妻、臨時雇用1~2名(夏から秋の4か月間)
- 販売先: ゴールド農園(弘前市)、JA、青果市場、弘前市ふるさと納税返礼品

研修での学び

私も妻も、りんご農家育ちで作業経験もあったので、特別な研修は受けていません。いざ就農してみると栽培や病害虫に関する知識と技術が必要と感じ、りんご協会（弘前市）の講習会に参加したり、りんご研究所（黒石市）の担当に聞いたりして、不足する技能の習得に励んでいます。

就農して6年目の課題

作付面積を拡大したい。課題は近隣で条件の良い園地がなかなか見つからないことと、農繁期の労働力確保が難しいことです。



乗ったよ



集めたよ



摘んだよ

今後の展望

来年からはドローンを使い液剤式の人工授粉の取組も考えています。

今年から弘前市農業委員会の農地利用最適化推進委員になり、地域の農家と接する機会も増えたので、これからも人とのつながりを大切に、将来、就農を目指す方にもアドバイスできるようになりたいです。

就農するときに苦労したこと

就農当初、園地（70a）は荒れており、手入れが大変でしたし、思うような収穫を得られず収入が少なく苦労しました。この時期に農業次世代人材投資資金（開始型）を夫婦で受給できたことは大きな助けとなりました。この給付金がなければ営農を続けられなかったと思っています。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）
- ・経営継続補助金

私たちのスタイルの農業はコレ

就農時から変わらず、「美味しいりんごを食べてもらう」ことがこだわり。そのため、十分に味をのせてから収穫することを



心がけています。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

りんご栽培は苗木を植えてから収益が出るまで7年かかると言われています。手間暇がかかるからこそ、りんご栽培は魅力があると思います。

40～50代になって、りんご栽培を始めた人から「もっと早くやればよかった」という話も聞くため、できるだけ若い人、早い時期からの就農を勧めたいし、応援したいです。

香味野菜専門農園 スパイスファームせきぐち

せきぐち よしひさ
関口 善寿 (42)

田子町
就農4年目

自宅から畑までの移動時間さえ無駄にせず、販売企画を練っています。



これまで父が守ってきた在来種のニンニクを絶やしたくないとの思いで、40歳を目前に、商業施設の管理会社を退職し就農しました。

香味野菜を丸ごとフロデュース

ぷっくりハラペーニョ



ピクルスは、ホットドックのトッピングで人気。程よい辛さ！

山わさび畑



すりおろしをご飯にのせ、お醤油をお好みで。爽やかな辛さ！

食べ頃のパドロン



ビールのおつまみとして素揚げでお手軽に。ほぼ辛み無し！

経営概要

- 栽培面積: 55a(にんにく50a、その他5a)
- 栽培品目: にんにく、唐辛子、ハラペーニョ、パドロン、ハバネロ、山わさび
- 主な保有機械: トラクター、茎葉処理機、収穫機、畝立機
- 労働力: 本人、父、母
- 販売先: 自社HPによる販売、首都圏の小売店、飲食店
- スパイスファームせきぐちHP
<https://spicefarm.jp>

研修での学び

農業研修は受けていませんが、ベテラン農家の父から栽培技術を学んでいます。就農前に、独学で野菜栽培士、ベジタブル&フルーツアドバイザー、オリーブオイルテイスターの資格を取得し、野菜に関する様々な知識を蓄えました。

■最初の相談先: 田子町役場

就農するときに苦労したこと

就農当初は、主力となるニンニクのほかに西洋野菜を栽培しましたが、売上げが伸びず、「2年間で、安定販売出来なければ作物を変更する」と決めていたので、今は、需要が伸びている香味野菜に変更しています。中でも唐辛子系のハラペーニョや見た目は小ぶりのピーマンかシシトウのようなパドロン等は、全国的にも生産が少ないためか、インターネット販売や飲食店などから引き合いがあります。

就農して4年目の課題

現在、首都圏の飲食店数社と取引していますが、安定した経営を目指して更に多くの取引先を確保したいと考えています。営業は、新型コロナウイルス感染症の影響で、電話やメールが主となっていますが、対面での商談とは異なり野菜の味や香り、栽培の特徴などを思うようにアピールできないことから、どうしたら効果的な営業につながっていけるかが課題となっています。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金(経営開始型)
- ・農作物生産力強化対策事業(町単独事業)



私スタイルの農業はコレ

父から受け継いだ在来種のニンニクを病害虫から守るため、作業の都度、機械洗浄を徹底しています。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

就農する際、どんな作物を栽培すれば良いのか悩みました。栽培技術に関してはベテラン農家に敵わないと考え、試行錯誤を繰り返した結果、現在は、生産が少なく特徴のある野菜で勝負しています。

販路を確保するためには、取引先に野菜の味や香り、栽培の特徴などをアピールして興味をもっていただくことが大切です。日々、野菜の魅力を探求し、独自の企画で販売戦略を立てるなど、工夫を凝らしています。努力した分、相應の成果が得られることが農業の魅力です。

今後の展望

香味野菜は生鮮よりも加工した方が販売しやすいため、ピクルスなどへの加工を考えています。また、お客様からのご要望に対し、肝心の生産量が追いついていないため、栽培面積を拡大し、増産を目指しています。

たかやま自然農園

たかやま てっしん

高山 鉄身 (29)



五戸町
就農4年目

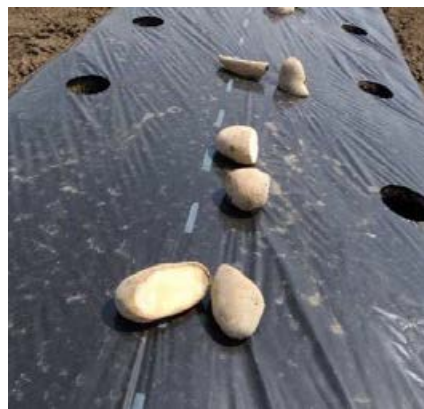
自分で育てた野菜を食べてもらい
「美味しい！」と言ってもらえた時に
「農業って楽しい！」と感じています。



大学では理工学部でダムに関する研究をしていました。卒業後は元々興味のあった「農業」を仕事にできないか考えていました。そんなとき、定年退職した父が農業を始めると言い出したので、チャンスだと思い同時期に就農を決意しました。

人生初めての仕事は農業

じゃがいも植え付け



長期保存可能なじゃがいもを選定

にんにく圃場



たかやま自然農園の主力商品！

草刈機械



雑草対策はハンマーナイフモアを使用

経営概要

- 栽培面積: 1ha(パイプハウス6棟含む)
- 栽培品目: にんにく、アピオス、馬鈴薯等 30品目以上
- 主な保有機械: 中古トラクター、草刈り機等
- 労働力: 本人、父

■ 販売先: 産直コーナー(マエダストア(五戸町1店舗、八戸市2店舗)、イオンスーパーセンター(十和田市)、カブセンター(八戸市2店舗)、セブドール(八戸2店舗))、JAファーマーズ・マーケットかだあ〜れ(十和田市)、メルカリ(たかやま自然農園で出品)

研修での学び

■研修期間 1年間

五戸町で有機農業に取り組む「はる農園」で実地研修を受けながら「青森県営農大学校」で月1回の基礎研修を受けました。

栽培の基礎知識や農業経営として販路開拓の流れを習得することができました。しかし、果菜類などの育苗時期に研修が終了しており、育苗経験ができずに本番を迎えたので、研修期間にしっかりと学んでおきたかったです。

■最初の相談先：五戸町役場

就農して4年目の課題

栽培管理のスケジュール作りが課題です。夏場は野菜の成長が早く、手が回らなくなるので、夏野菜を少し減らして他の時期の作物を増やすなど調整していく必要があると考えています。

今後の展望

将来的に有機栽培にも取り組んでみたいと考えています。収入が安定していけば、次のステップとして有機JAS認証を取得するなどの展開を図りたいです。

就農するときに苦労したこと

非農家だったので、農地のあてもなく畑の確保に苦労しました。また、化学肥料や農薬を使用しない農業に取り組むため、ドリフトが生じない畑を探していましたが、希望に沿った畑がなかなか見つからず時間がかかりました。

<参考>ドリフトとは散布された農薬が目的外の作物に付着しまう現象。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（準備型）
- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）

私スタイルの農業はコレ



化学肥料・農薬不使用の野菜を求める方々のニーズに応え、環境にやさしい栽培にこだわっています。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

就農を決める前に、農家の方から実際に農業を手伝わせてもらい、自分の頭の中にある「農業」のイメージと現実の擦り合わせをしておくことをおすすめします。

農業を始めるためには農業機械の購入が必要です。決して安価なものではないので、購入してしまったらもう突き進むしかありません。就農を決意をする前に、まずは農業体験をしてみてください。

くりはら

あかね

栗原 亜華音 (22)

鱈ヶ沢町
就農3年目

街中ではなく、小さい頃から遊んだ
岩木山麓が大好きなので、就農する
ならこの場所と決めていました。

106馬力は力強い



運転は、慣れるまで
非常に苦労しました。

アームを広げると8m



広大な農地には病虫害の
防除に必須です。

軽トラは重宝



軽トラックは、重要な相棒で
頻繁に運転します。

自然豊かな岩木山麓で、
とうもろこし栽培に挑戦中！



子供の頃から祖母と出かけていた自然豊かな
岩木山麓にある大伯父の農場で、食べたとうもろ
こしが普段食べていた、とうもろこしに比べてと
ても美味しく感じられました。

経営概要

- 栽培面積: 畑 1.5ha
- 狩猟免許: わな免許・銃猟免許取得済み
- 栽培品目: とうもろこし(1.0ha) アスパラガス(0.5ha)
- 主な機械: トラクター(賃借)、ズームスプレア(賃借)、軽トラック
- 労働力: 本人(繁忙期: 祖母)
- 販売先: (株)能代青果地方卸売市場、(株)東日流農産

研修での学び

■研修期間 2年間

青森県営農大学校に入学し、大型特殊・フォークリフト等の免許を取得しました。しかし、とうもろこしの栽培を専攻する授業がなかったので、6ヶ月間で退学しました。その後は、大伯父の農場で、とうもろこしの栽培を1年間みっちりと現場研修しました。

■最初の相談先：祖母

就農して3年目の課題

今年は、春からの不順天候と8月の大雨で大不作となりました。

とうもろこしの収穫は時期の見極めが難しく、皮を剥いて実を見るとシワになっている時もあり、もう少し経験が必要だと感じています。

アスパラガスは、来年から収穫が始まるので期待しています。

今後の展望

とうもろこしの販売に立ち合った時、年配の方々が買い求めるケースが非常に多く、若い人が少ないと感じました。将来的には、若い人たちにも好まれるとうもろこしを生産し販路の拡大を図っていきたいと思っています。

また、狩猟免許を生かし、鳥獣被害対策にひと役買いたいとの意気込みも持っています。

就農するときに苦労したこと

就農するに当たって、農業次世代人材投資資金（開始型）を活用しようと申請したが、当時は19歳で申請書類の記載内容が難しく、承認を得るまでに非常に苦労しました。

初期投資の資金等は、親からの援助や借り入れで何とか対応することができました。トラクターやズームスプレア等の大型機械は、大伯父から借りています。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）

私スタイルの農業はコレ

★ 岩木山麓の寒暖差を活かし、とうもろこしやアスパラガス等の高冷地野菜を生産しています。



農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

農業は、一番古くからある職業で、紀元前から世界中で行われ続けています。

自然相手に、生産した物が高く売れるか、売れないかも分からない。最初は苦しいことばかりで厳しいけれど、くじけそうな時は「出来ないことはない」、「何とかなる」と思い直し頑張って貰いたいです。

自分も頑張っていきます。

きたかみ ともや
北上 智哉 (43)

むつ市
就農3年目



様々な地域の黒にんにくを食べ比べ、四国で出会った黒にんにくの美味しさに感動したとき、最高の黒にんにくを自らの手で作り育てたいとの思いが大きく膨らんだ。



最高の黒にんにくを
作りたい

20代に、東通村田屋地区のそば屋にて祖母からそば打ちの技術を引き継いだとき、昼食に食べた自家製の漬物や生野菜の美味しさに触れたことが農業に興味を持つきっかけに。

その後、地元でいろいろな仕事を経験したが、人生一度きりと思い40歳を節目に就農を決意しました。

にんにくの根切り



根切り機械を2台導入して作業を効率化。

今年収穫したにんにく



こだわりの栽培は、まだまだ試行錯誤が続く。

黒にんにくを東通村の特産に



今は委託加工しているがいつか自分で。

経営概要

- 栽培面積: 約1ha(東通村:借地)
- 販売先: 産直コーナー(むつ市内)
(株)よしだや(三戸町)
- 栽培品目: にんにく、菊芋、馬鈴薯、さつまいも等
- 主な保有機械: トラクター、にんにく収穫機・根切り機械、乾燥機等
- 労働力: 本人、妻、臨時雇用3名

研修での学び

■研修期間 2年間

1年目は十和田市や三戸町のにんにく農家や、農業生産法人のほか、四国の農家で短期の研修を。2年目は知り合いの野菜農家（横浜町）で研修を行い、野菜の栽培管理に関する基礎知識に加え、にんにく、長いも、じゃがいもの栽培実務を学びました。

■最初の相談先：下北地域県民局

就農して4年目の課題

生産面は順調ですが、資金調達面での苦戦が続いています。当初計画していた機械導入等が進まず、思うような経営ができていないことが課題です。

今後の展望

糖度の高いにんにく作りを目指し、今までに出会った人々から教わった、納豆菌や竹の酵素、乳酸菌を葉面散布するなど、こだわりの栽培方法を取り入れています。青森県でもトップクラスの糖度を誇るにんにくを育て、それで酸味、苦みのない、甘くて美味しい「黒にんにく」を作り、ゆくゆくは、東通村の特産品にしたいと思っています。将来的には法人化を目標にしています。

就農するときに苦労したこと

非農家なので、農地も機械も経験もない3ゼロからの出発でした。就農5年目の所得目標を設けて努力してきましたが、規模拡大や機械・資材の購入、生活費を含めた運転資金の確保が、農業作業以上に大変でした。

活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金（経営開始型）
- ・青年等就農資金



私スタイルの農業はコレ



夏場は、にんにく栽培に全力を尽くして、冬場は他業種のアルバイトなどをして、のんびりとしたいです。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ



農業をゼロから始める場合は、とにかく資金面で苦労します。融資はすぐに受けられないので、経営が安定するまで少なくとも数年分の生活、運転資金が必要だと思います。

また、講習、研修などに積極的に参加し、情報をアップデートしていくことも必要かと。「今やるべきことを一度さぼると（ラクをすると）後に2倍の苦しみがやってくる。」と、先輩に言われましたが、まさにそのとおりで、農作物の生産には適期に必要な作業をすることが重要です。

しおざき

しのぶ

塩崎 忍 (45)



青森市

就農 3 年目

退職金で樹園地を購入し、りんご栽培に取り組んでいます。生産と販売どちらも人の繋がりが大切だと思っています。



りんご栽培に挑戦!

20年間、宮城県内の会社に勤務していましたが、地元への転勤を契機に、休日、実家のりんご栽培を手伝い始めました。

手伝っているうちに、「自分は畑仕事の方が向いている。」と強く思い退職し、自らりんご栽培に取り組むこととしました。

選果作業で成果確認



樹園地での選果は大変ですが一年間の成果が確認できます。

乗用草刈機は重宝



乗用草刈機は、樹園地管理の必須アイテムです。

いつかは新車で



薬剤散布はスピードスプレーヤーがかかせません。

経営概要

- 栽培面積: 樹園地1.4ha(所有地:1ha、借地:0.4ha)
- 栽培品目: りんご (ふじ8割、つがる2割、その他)
- 主な保有機械: スピードスプレーヤー(賃借)、乗用草刈機
- 労働力: 本人、パート1人(5~6日/月)、繁忙期: 1日農業バイトアプリ「daywork(デイワーク)」を活用
- 販売先: JA、インターネット販売、(株)弘前中央青果(今年産から)

研修での学び

■農業研修は受けていません。

実家で子供の頃からりんご栽培の手伝いをしていた知識を土台に地域の先輩方の作業を参考にしています。

非常に高度な技術を要するせん定作業は、父の友人の園地を手伝いつつ技を身につけている最中です。実際の木に合わせたせん定ができるまでには、もっと経験と実績が必要です。

■最初の相談先：父（JA職員）

就農するときに苦労したこと

サラリーマンのときと大きく違い、税務申告（青色申告）時の収支決算の仕分（経理区分）等を自ら行わなければならない、非常に苦労しました。青森市で開催された勉強会（年2回）に参加しましたが、どれが経費の項目になるのか判断が難しかったです。

就農2年目にJAの青色申告会があることを知りました。

また、活用できる補助事業の情報の入手方法の仕方も分からず苦労しました。

就農して3年目の課題

摘果作業や収穫作業等で人手が必要な場合は、1日農業アルバイトアプリ（デイワーク）を通じて募集しています。当日、人数が決まるシステムでその日によって人数が異なるため必要な時に必要な人員を確保できない時があります。

安定的な労働力の確保が課題となっています。

活用した支援事業

・農業次世代人材投資資金（経営開始型）

私スタイルの農業はコレ

不要なビニールや作業用具が散らかっていると、作業効率が悪く、ケガにもつながることから、畑をきれいに管理することにこだわっています。



今後の展望

マルバ台の老木が多く、スピードスプレーヤー等の機械が入りにくいことから、作業の効率化を目指して高密植栽培に取り組みたいです。その後、労働力を安定的に確保できれば、規模拡大も検討していきたいです。

農業をはじめてみたい

あなたへメッセージ

りんごの価格は、一昨年・昨年と高値が続いていますが、先のことはわかりません。りんごの生産は1～2年の短い結果で善し悪しを判断せずに、10年単位で見続けて評価する思いで、取り組むことが大事だと思っています。

つるがさき

鶴ヶ崎

東北町

就農6年目

よしたか

善貴(29)

綺麗なお花を楽しんでもらいたいという想いで、丹精込めて栽培管理をしています。

農業で家族と過ごす時間が充実



会社勤めの傍ら、半農半漁の家業を手伝う中で一次産業は努力した分が稼ぎとして報われることを知りました。

結婚して家庭を築きたいとの思いの中、収入面で不安があった会社勤めに見切りをつけ、親元就農を決断しました。

現在は花き栽培としじみ漁に加え、にんにく作りにも挑んでいます。

みんなでひと休み



にんにくの植え付け作業は、家族・親戚総動員で！

にんにくの乾燥



ハウスで乾燥させ、長期間販売

スプレー菊の摘蕾



大きな花を咲かせるための一手間

経営概要

- 栽培面積：花き(パイプハウス80坪2棟、60坪6棟)、にんにく1.1ha
- 栽培品目：スプレー菊、にんにく
- 販売先：青森市中央卸売市場、道の駅おがわら湖、JA(にんにくのみ)、ファーマーズ・マーケット かだあ〜れ
- 主な保有機械：トラクター
- 労働力：本人、妻、実母、臨時雇用者

研修での学び

■就農前に研修等は受けていません。地域で数少ない菊栽培は、亡父から土づくりから植付け、病虫害対策、収穫までの手ほどきを受けました。

チャレンジ中のにんにく栽培は、農業機械等の調達を含め親戚からアドバイスを受けています。

■最初の相談先：東北町役場

就農するときに苦労したこと

父の菊栽培をそのまま継承して就農するつもりで、国の新規就農支援の活用を町役場に相談しました。当時、親と異なる作物を導入することが支援の要件となっていたことから、冬場の収入が見込めるにんにく栽培にチャレンジすることにしました。

栽培経験がない作物で就農を始めたため、技術の習得や農業機械・農地確保に苦労しました。

就農して6年目の課題

にんにくは、家族と臨時雇用者で栽培していますが、高齢者が多く、作業の省力化が課題と感じており、解決策の一つとして国の支援事業等を活用してにんにく堀取り機などの導入を模索しています。

東北町で数少ない花き栽培の基礎は父から学びましたが、経験や知識を引き継ぐ前に他界してしまいました。

分からないことがあっても、近くに聞くことができる同業者がいないことから、様々な試行錯誤を繰り返すことで何とか乗り越えています。

活用した支援事業

・農業次世代人材投資資金（経営開始型）



私スタイルの農業はコレ

★ 菊の栽培は、旧来のやり方にこだわらず、消費者に寄り添ったニーズのある品種の選択と増産にチャレンジしています。

★ 花きの収入は未だ予想を下回るレベルですが、小川原湖でのシジミ漁を兼業した多角化もあって、何とか経営は安定しています。

農業をはじめてみたい

あなたへメッセージ



農業は、良くも悪くも自分でやったことが全部自分に跳ね返ってきます。また、スケジュールも自分で決めることが出来るので、家族と過ごす時間も作りやすい職業です。就農にあたっては栽培技術や経営をしっかりと学び、消費者ニーズや世の中の流れを汲み取る中で、自分の可能性が広がるような経営に取り組んで欲しいと思います。

今後の展望

市場に菊の花を出荷した際に、出荷量の多さを関係者から褒められたことが励みとなりました。近くに条件の良い農地があれば、栽培規模を拡大したいと考えています。

つしま
對馬

きょうこ
響子(27)



六ヶ所村

就農1年目

響子さん 営農大学校で牛の世話をしているうちに、酪農に魅了され、生きがいと喜びを感じながら、酪農ライフを満喫中！

夫 妻の出産と牛の分娩ラッシュが重なりモ～奮闘。無事に乗り越えて自信がつかました。

兄弟で、はいチーズ



誕生日が一緒の子牛とパシャ

もぐもぐタイム🕒



リラックスして食事の牛たち

モ～そろそろひとり立ち



好奇心がいっぱいのパドックの子牛

夢を実現「20代で自分の牧場を持つ」



夢に一步踏み出せたのは、牛への愛情と、国内外で培った知識と経験、そして夫の理解と協力があってこそ。今は令和4年5月に生まれた息子が後押し。



経営概要

令和4年10月27日現在(取材日)

- 飼養頭数:52頭(搾乳牛35頭、乾乳牛8頭、子牛9頭)
- 所有施設:牛舎3棟(搾乳牛舎1棟、乾乳牛舎1棟、育成用牛舎1棟)、格納庫
- 主な保有機械:トラクター、ホイルローダー、自走式給餌機
- 労働力: 本人、夫(響子さんが行う畜産経営の専従者 ※ 前職は宮大工)

■ 出荷先:JA



研修での学び

■研修期間：約7年間

2014年から2年間、青森県営農大学校で畜産の知識や技術、経営について学びました。

卒業後、在学中の酪農実習が縁で六ヶ所村の酪農ヘルパー（農業支援員）として3年間、畜産農家を巡り、先輩方の酪農技術を学びました。2019年からの1年間はスキルアップを目指して本場ニュージーランドで修行。帰国後の2020年からは、再び六ヶ所村の酪農ヘルパーを勤めながら、酪農技術の研鑽に励みました。

■最初の相談先：六ヶ所村役場

就農するときに苦労したこと

就農前に苦労したことは資金調達です。新規に畜産を始めるには、牛の導入や牛舎、機械等の準備と、莫大な資金の調達に不安がありましたが、六ヶ所村の斡旋により、第三者継承の機会が得られたこと、必要な経費は金融公庫からの融資に加え、村の青年就農支援事業を活用することができました。今も村の担当者はじめ、関係者の皆様に大変助けていただいています。



就農して1年目の課題

乳牛や牛舎などは第三者継承で譲り受けたものの、まだまだ就農1年目であり、まずは経営を軌道に乗せたいです。今は飼料や資材の高騰、労働力不足などの不安を抱えながらも、ひとつひとつ解決に向け奮闘しています。

活用した支援事業

- ・酪農経営支援総合対策事業
- ・青年等就農資金（日本政策金融公庫）
- ・青年就農支援事業（六ヶ所村）

私のスタイルの農業はコレ

 牛がストレスを感じると、それが乳量や品質に真っ直ぐに現れるので、気持ちよく過ごせるよう、常に清潔な牛舎を保つよう心がけています。
 



今後の展望

今までに学び、培った知識や技術を「自分の牛」で試せることに喜びを感じています。牛舎は旧型ですが、他に負けないくらいの愛情を注ぎ込んで、良質な牛乳の生産をすることに生きがいを感じています。今は50頭程度が夫婦二人には適性な作業範囲と考え、5月に誕生したばかりの息子もいることから、しばらくは今の経営規模で、酪農と子育てを楽しみたいです。規模拡大は、子供の成長をみながら検討します。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

畜産に限らず就農には、資金も経験も、そして運も必要と思います。私は動物好きが高じて営農大学校の酪農課程を選択し、酪農実習を重ねるたびに益々酪農の魅力に引き込まれ、夏休みも研修先の酪農家で過ごす日々を送ってきました。つまりは、
「好きこそ物の上手なれ」です！

ナンバグラップルス
NanburGrapples

よしだ しゅうじ

吉田 宗司 (41)

八戸市

就農 3 年目

ワイン好きが昂じてワインエキスパート※の資格を取得。ワインと同じように、野菜もテイスティングします！！

※ 一般社団法人日本ソムリエ協会が認定する民間資格。酒類、飲料、食全般の専門的知識とテイスティング能力を有することが認定されます。



畑の生き物は大切



益虫は減農薬栽培においてビジネスパートナーです（笑）畑で会うとテンション上がります。

完熟赤ピーマン



赤く色づいたピーマンは、甘味が別格です。

お酒に合うおつまみ



パドロンの素揚げは、ビールと好相性です。

1からのモノ作りに挑戦



前職は、全国を転々とするサラリーマンでした。自然、美味しいもの、ワイン、体を動かすこと、が好きで『1からモノを作る』ことって最高に心がワクワクすると思い、ワイン造りを目指して農業の道を歩き始めました。美味しい野菜の栽培方法を探求して、料理、お酒との組み合わせなどとともに情報発信できるのが自分の強みです。

経営概要

- 栽培面積：50.5a
- 栽培品目：露地ピーマン、ワイン用葡萄、甘長とうがらし
パドロン、山椒、他イタリア野菜少々
- 主な保有機械：トラクター（25ps）、管理機等
- 労働力：家族3人（本人、妻、母）、季節雇用のパート数名

- 販売先：八戸市中央卸売市場、JA、カブセター（八戸市2店舗）、飲食店、ネットショップ（食べチョク、ポケットマルシェ等、Nanbur Grapples 吉田宗司で出品）
- 活動紹介：ユーザー名 nanburgrapples instagramやFacebookなどで取組を発信！

研修での学び

■就農準備・研修期間 Uターン前1年半
就農準備を始めた時、宮城県に在住していたので、休日に宮城県農業大学校で基礎的な講義と農作業を実習しました。また、近隣のワイナリーや果樹農家に通い栽培やワイン造りについて学びました。八戸市にUターンし、地域おこし協力隊の活動をしながら農業をスタートし、様々な農家と出会い、知見を得ています。長野の千曲川ワインアカデミーを受講したり、全国のワイナリーを訪問し学び続けています。

■最初の相談先

八戸市農業経営振興センター

就農して3年目の課題

ピーマンの栽培面積を30aから50aに増やすことを考えています。労働力は、家族3人と繁忙期は知り合いを通じてパートを数名雇っていますが、面積が増えればそれだけ労働力の確保が必要となります。そのため、JAや行政等のマッチングサイトの活用も考えています。

今後の展望

海外ではオーガニック市場が拡大しており、ワイン業界でも同様です。日本でもその流れが広まりつつあり、自身も有機栽培でのワイン用葡萄生産に取り組み、将来は自身で飲食店を経営し、自前のナチュラルワインを提供したいと思っています。

就農するときに苦労したこと

八戸市では、地域おこし協力隊の活動をしながら就農した前例がないためか、行政のサポートをスムーズに受けられない場面もありましたが、経験面では数多くのものを得ました。現在は、サポート体制も充実してきたと感じています。また、就農当初は経営が安定しませんし、作物を生産するための投資も嵩むことから貯蓄がみるみる減りました。事前に自己資金を準備しておくことをお勧めします。

活用した支援事業

・新規就農者育成総合対策（経営開始資金）

私スタイルの農業はコレ



新規参入者ならではの視点で周りとは少しでも違う取組、新しい取組を意識しています。ピーマンは青森県特別栽培認証（節農5、化5）を取得し環境への影響も考えた農業に取り組んでいます。

農業をはじめてみたい あなたへメッセージ

就農するということは、ただ農作業をするということではなく起業するということです。栽培だけでなく、マーケティング、営業、経理、政治や業界の動き、他産業の知識も多少必要です。こういったことにアンテナを張って常に勉強し続けることが大切だと思い、日々農業と向き合っています。失敗もたくさん経験すると思いますが、反省しながら学び続ける人はいつか成功できると信じています。

一緒に青森の農業を盛り上げましょう。



新規就農に関する情報は、
農林水産省及び東北農政局のホームページでご覧いただけます。

農林水産省ホームページ

<https://www.maff.go.jp/>



新規就農の促進

(農林水産省ホームページ内)

https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/

- ・ 施策情報（新規就農者への支援等）
- ・ 参考情報（新規就農に関する資料等）



あふてらす（農林水産省ホームページ内）

https://www.maff.go.jp/j/aff_terrace/



農業に興味がある方、これからはじめたい方向け
の情報を発信しています。



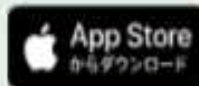
東北農政局ホームページ

<http://www.maff.go.jp/tohoku>



MAFFアプリ（マフアプリ）

農業者と農林水産省をつなぐ
新たなコミュニケーションツ
ール





編集後記

「青森で農業はじめました」をご覧いただきありがとうございます。この事例集は、東北農政局青森県拠点の職員が、新規就農者の田んぼや畑に直接お邪魔して取材を行い、皆様から伺った農業に対する熱い想いや弛まぬ努力、農業をはじめてみたい方へのメッセージなどを取りまとめたものです。

本事例集を手にとっていただいた方の中には、農業に関心がある方や既に就農準備を始めている方もいらっしゃるかも知れません。そのような方々の参考になれば幸いと考えております。

お忙しい中、取材にご協力いただいた新規就農者の皆様をはじめ、新規就農者をご紹介いただいた関係機関の皆様におかれましては、大変ありがとうございました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

東北農政局青森県拠点では、農業現場の生の声や様々な取り組みを幅広く皆様にご紹介していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

東北農政局 青森県拠点
地方参事官室 一同





青森で
農業をはじめませんか！

編集発行：東北農政局 青森県拠点 地方参事官室

電話：017-775-2151

F A X：017-723-3840

〒030-0861 青森県青森市長島一丁目3-25

(青森法務総合庁舎4階)

問い合わせ先 地方参事官室 (石川、本堂、森、新山)